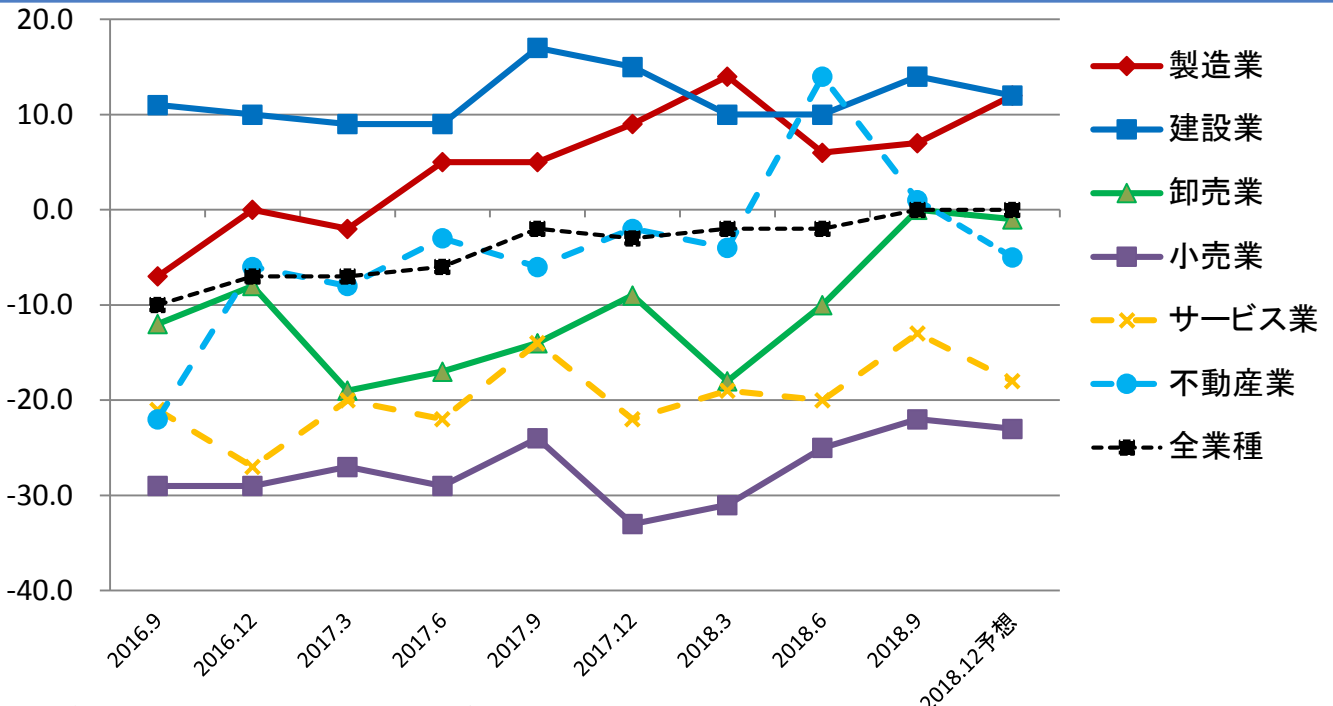


福生市商工会 経営だより

1. 多摩地域の小規模企業業種別業況判断DIの推移



※製造業・建設業は19人以下を、卸売業・小売業・サービス業は4人以下を小規模企業としています。

出典：多摩信用金庫 多摩けいざい No.86

2. 業況判断DIの分析

全業種は前々月から変化がなく横ばい状態です。建設業が前月より4ポイントアップし好調を維持しています。前月まで好調だった不動産業が13ポイント減で12月期も減が予想されています。卸売業、サービス業、小売業も前月に引き続き回復傾向がみられます。製造業は前回ポイントを落としましたが、復調の兆しが見えてきています。小売業はこれから年末商戦で回復を願いたいところです。製造業では新たな設備投資をする事業者もみられ、生産性向上が期待されています。

3. 中小企業診断士の一言

治療と仕事の両立に関する記事が多く取りあげられています。空前の人手不足で病気を治療しながら仕事をしやすい環境を作ることが求められています。いまや2人に1人はかかる「がん」。早期発見のための健康診断などは欠かせませんが、治療技術の発達により、治るがんも増えています。働くことに生きがいを感じている従業員にとってみれば、治療しながら働ける職場はありがたいものです。従業員と相談しながら、働ける範囲で働き続けられる職場を作っていきましょう。東京商工会議所では、健康経営を推進しており、「健康経営アドバイザー派遣制度」を無料で行っています。健康診断の活用方法、メタボ予防、心身不調の予防のヒントとなる取り組みを、貴社に合わせた形で提案してくれる制度です。一度、問い合わせてみてはいかがでしょうか。

4.主要業界のトレンド

【全体】

人口の減少や高齢化が進行し地域各々に問題が発生しています。この問題は地域ごとに異なることが特徴で、その問題にすぐに対応することができるのが小規模事業者です。その土地で商売をし、歴史を見てきた小規模事業者だからできることがあります。地域コミュニティの核となり、こういう時代だからこそ人と人とのつながりを再構築する担い手になっている企業が各地に出てきています。

【製造業】

少子高齢化の現状を職場環境に反映していくことも重要です。従業員が高齢化していくなかで、若い頃のような労働環境では「正直、体がきつい」という方もいます。労働環境の整備（椅子を随所に置く、作業場の動線を広めにとる）、従業員間の連絡手段の確立（有事の際の連絡網を整えておく）など、社内に対応できることが多くあります。できることから変えていきましょう。

【サービス業】

「今日は〇人のお客さんが来る。みそ汁は〇杯、漬物は〇皿必要です。」飲食業でこんな指示を出すことができたら良いと思いませんか。実はこのようなことを実践している会社があります。予測は、天気予報や曜日、近隣の催事など一般的な情報に、自社取得した実績値を併せて計算しています。自社の来客実績を記録に取っておくことは非常に重要で、勘に頼っていた予想を数値に基づく予測に変えることができます。いつか始めるのではなく、今からコツコツと情報を収集してみたいかがでしょうか。どうしたら良いかなどは商工会にご相談ください。

【小売業】

リバイバル商品に活路が見えてきました。最近では固形石鹼が汚れた部分に直接使えるなどから液体石鹼との使い分けをするニーズが出てきています。20数年前に流行ったジージャンもここ最近では再び流行になっています。特に生活必需品を近所で買えることは地域の小売店の最大の強みです。地域の方がすぐ欲しい商品が地域の小売店には求められています。

【建設業】

外国人労働者の雇用について国会で議論になっています。もうじき今よりさらに多くの外国人労働者が日本国内で就労することになります。外国人労働者は文化も価値観も異なるため、日本の文化が通用するとは限りません。就業規則等のルールも必要ですが、まずは対話を試みるのが重要です。しっかり話をしてお互いを理解し、そこから自社の労働条件や給与体系などを誤解なく伝える仕組みを今のうちから準備しておきましょう。

5.小さな企業の新たな取組みのためのヒント

中小企業大学校で一斉に「採用難に対応する人材確保IT活用講座」が開講されます。東京校（東大和市）では、**2019年2月26日～2月28日**に実施されます。企業を取り巻く環境を踏まえながら、人手不足対応を図ることへの考え方や人材確保を行う際に必要となる自社のアピールポイントの見つけ方について演習を交えて学び、併せてIT活用についても学ぶことができます。各地でいろいろな取組みが実施されています。是非商工会に相談してみたいかがでしょうか。